

中依知遺跡群は、さがみ縦貫道路・厚木秦野道路の建設事業に伴い、発掘調査が実施されてきました。調査では、近世～旧石器時代の遺構や遺物が多数確認されていますが、今回は古墳時代の成果について、現在実施されている第3次調査と過去の第1・2次調査をあわせてご紹介します。

現在：第3次調査(2022年～現在)

第3次調査では、台地上で古墳時代後期の古墳(円墳)が2基、台地西側の斜面で古墳時代後期の横穴墓が10基発見されました。2基の古墳は台地上の西側に偏った位置にあり、横穴墓10基は台地西側の斜面の中位に立地しています。

古墳

2基の古墳は、ほぼ南北に並んでいて、南側にある3号墳が墳丘の直径約17mの円墳で、墳丘中央部に長さ約6mの横穴式石室があります。北側の1号墳は大部分が調査区域外にありますが、3号墳とほぼ同じ規模と推定されます。



過去：第1次調査(2001～2003年)、第2次調査(2010～2011年)

第1・2次調査の調査範囲内には、群集墳と呼ばれる小規模な古墳を中心に形成された桜樹古墳群と、丘陵斜面に横穴を掘って埋葬する横穴墓で形成される中林横穴墓群の一部が含まれていました。そのうち、桜樹古墳群に属する5基(1～5号墳)については石室全体の調査を行いました。他は調査範囲外にあり、石室の一部や周溝のみを調査しています。

古墳

調査した古墳はすべて円墳と考えられ、墳丘径は14～16m程です。石室はいずれも入口の羨道部と玄室の幅が同規模で、前壁を持たない無袖式の横穴式石室で、玄室から直刀や鉄鏃などの武器類や鉸具や菱形飾金具などの馬具、金銅・鉄・鉛製の耳環と勾玉、切子玉、管玉、甕玉、ガラス玉といった装飾品などが出土しています。また、1号墳の周溝から珍しい把手が付く土師器の壺が発見されました。古墳群は6世末から7世紀前半にかけて造られたと考えられます。



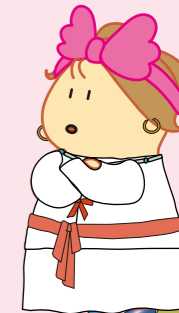
横穴墓

10基の横穴墓の中には、石積施設を有するものが5基あります。横穴墓の入口部分の周囲に河原石を積み上げているもので、横穴式石室の入口部分と同様の「見映え」を目的に造られていると推測されます。石積施設は丁寧に積み上げられていて、状態の良いものは、高さ3mに及ぶものもあります。



横穴墓

丘陵頂部から段丘面に降る傾斜面では4基の横穴墓(中林横穴墓群)が発見され、このうち3基(2～4号墓)は横穴墓全体の調査をしています。いずれも開口部は大形の礫で閉塞されていましたが、前庭部や開口部に石積施設などはありませんでした。玄室床面は小礫が敷かれ、3・4号墓からは複数体の人骨が発見されましたが、遺物は出土していません。古墳群の築造が終わった7世紀中頃以降に、横穴墓群が造られたと推定されます。



同じ市内の横穴墓でも、場所によってこんなにも様相が異なるんだね!

※1 神奈川県教育委員会所蔵・提供
 ※2 神奈川県教育委員会所蔵
 出典：かながわ考古学財団調査報告 205, 2007年
 「中依知遺跡群(宮ノ越・宮ノ前遺跡 桜樹古墳群 中林横穴墓群)」
 ※3 神奈川県教育委員会提供